にいがた発！在宅ホスピスケアボランティア講座　第3回 普及・啓発セミナー

住み慣れた家で最期まで生きるために

住み慣れた我が家で“がん終末期”を生きるためのホスピスケアは、医療・介護・福祉の専門家による多職種連携で可能となります。家は身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛そして霊的苦痛（スピリチュアルペイン）まで和らげることが出来ます。施設ホスピスで数多くの方を看取られた桜井金三先生と日本のスピリチュアルケアの第一人者である大下大圓師をお迎えし、全人的苦痛へのホスピスケアの大切さをお話いただきます。

千光寺住職

大下大圓（おおしただいえん）師

1954年（昭和29年）飛騨に生れる。
千光寺で出家する（12歳）。高野山大学文学部仏教学科卒業。
岐阜大学教育学部研究生終了。
スリランカ国ビドゥヤランカ仏教学院修行留学
（テーラヴァダー得度コース）。
京都大学こころの未来研究センター研修員修了
（瞑想療法、臨床瞑想法研究）。

飛騨で約30年前より「いのち、生と死」の学習会として「ビハーラ飛騨」を主宰。病院や在宅への専門的なボランティア活動として「ひだ医療福祉ボランティアの会」を結成、ベットサイドのボランティア活動を続ける。

- 京都大学大学院講師（医学研究科コミュニケーション学）（非常勤）
- 名古屋大学医学部講師（非常勤）
- 愛知医科大学大学院看護学研究科（非常勤）
- 日本スピリチュアルケア学会理事：認定指導スピリチュアルケア師
- NPO法人日本ホスピス・在宅ケア研究会理事　その他

日時：2016年12月10日（土）14：00～16：30（開場13：30）

会場：新潟市万代市民会館
（新潟市中央区東万代町9-1　TEL.025-246-7711）

定員：250人　無料　どなたでも可

※裏面の申込書でFAX（025-287-6688）でお申し込みください。

本事業は公益財団法人
在宅医療助成勇美記念財団
2015年度
「在宅医療研究への助成」
を受けています。

お問合せ先：TEL. **025-211-3930** 斎藤内科クリニック在宅支援室（担当/物江・斎藤）

同日講師

桜井金三先生
（新潟医療センター緩和ケア科）

1949年生、1977 新大医学部卒
医師歴39年、
2004年から施設ホスピス勤務
厚生連新潟医療センター
緩和ケア病棟勤務

がん療養中の
患者さんご家族のお傍で
常に寄り添いたいと
思っております。

―― 施設ホスピス医から見た「在宅ホスピス」とは？ ――

主催：斎藤内科クリニック（本事業は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2015年度「在宅医療研究への助成」を受けています）
後援：新潟市、新潟県、新潟日報社、新潟県緩和ケア推進協議会、新潟県小規模多機能型居宅介護事業者協議会
「にいがた発！在宅ホスピスケアボランティア講座」準備会メンバー
黒岩卓夫、今泉信作、松田正史、塚田裕子、坂井さゆり、島崎敬子、阿部葉子、斎藤忠雄、物江正子（在宅支援室）（順不同、敬称略）

にいがた発！在宅ホスピスケアボランティア講座 **第3回普及・啓発セミナー**

『住み慣れた家で最期まで生きるために』

平成28年12月10日(土)開催

〈申込・お問合せ先〉 斎藤内科クリニック(担当/物江・斎藤) TEL:025-211-3930

申込用紙

FAX:025-287-6688

参加代表者氏名		
参加代表者 連絡先・職種	電話番号(必須):	
	FAX番号:	
	E-mail:	
	学生 ・ 一 般 ・ 医療 ・ 福祉 ・ 行政 ・ その他	
参加者氏名・職種	氏名:	学生 ・ 一 般 ・ 医療 ・ 福祉 ・ 行政 ・ その他
参加者氏名・職種	氏名:	学生 ・ 一 般 ・ 医療 ・ 福祉 ・ 行政 ・ その他

〈会場〉新潟市万代市民会館

新潟市中央区東万代町9-1
TEL:025-246-7711
JR新潟駅万代口より徒歩7分
※お車でお越しの方は、周辺の有料駐車場をご利用ください。

1 ホスピスケアとは？

余命が限られた不治の病の患者さんが身体的・社会的・霊的苦痛から解放され、残された日々を人間としての尊厳を保ちながら、心身ともに安楽に過ごすことができるようにするためのケアです。

人間の尊厳とは？
自分で考えて、自分で選んで、そして人を愛し、人から愛されること。

2 在宅ホスピスケアとは？

患者さんの生活の場である“家”において実施されるホスピスケアであり、“家”は、患者さんやご家族が最も安らげる場であり、意思を最大限実現できる場所です。家で最期の日々を過ごしたい、という願いを叶えるためのケアです。

療養の場は自由に選択できることが大切です。家、ホスピス病棟、そして病院が自由に選べるべきです。

3 チームアプローチとは？

ホスピスケアの提供はチームを組んで行い、医師、看護師、介護者が基本単位ですが、ヘルパー、薬剤師そしてボランティアの参加も必要となります。